

Top Interview

町長の町づくりへの情熱やこだわりの源は？

私は、職員として町制施行50周年記念事業に深く関わってきました。当時、企画課の担当職員として様々な記念事業を手掛けさせていただきました。記念事業をやっていく中で、住民の皆さんとの繋がりがであったり、町そのものの良さを改めて実感することができました。また、それまでには深く考えることがなかった桂川町自体についても、真剣に向き合っていたように思います。

下記の写真は、当時の記念事業の一つで、タイムカプセルを地中に埋めているところです。町の資料や子どもたちが描いた絵、記念事業のビデオテープなどを詰めて、「今の桂川町の姿を50年後の桂川町民に伝えたい」という、未来へのメッセージを込めたものでした。町の姿を見つめ、町の将来を想う二つの経験が、私自身の町づくりに対する情熱やこだわりに繋がっているんだと思います。

これからの桂川町の未来……

まず、桂川町が進むべき町づくりの方向性は、何か二つの分野が突出することではなく、均整のとれた町づくりが大切だと思っています。教育・福祉・コミュニティ、そして生活環境の整備、農業や商工業といった産業の発展も、もちろん大切ですし、都市基盤の整備も欠かせません。均整が取れた町には安らぎが感じられます。夢や希望が叶えられる要件を整えることによって、定住化を促進することができます。

桂川町の町づくりの基本理念は、「文化の薫り高い心豊かな町づくり」なのですが、文化を象徴するのが「王塚古墳」だと思っています。「王塚古墳」が桂川町にあるということの事実を、皆さんにもっと意識して欲しいですね。なぜ、これだけの素晴らしい古墳が桂川町にあるのか。考古学の専門家のお話では、古代からこの地域にたくさんの方が住んでいたと



一緒に町づくりを行っていく、いわゆる「協働の町づくり」がキーワードになってくると思います。各地域によってその課題や、やるべきことは様々ですが、桂川町にあった取り組みをいかに皆さんと協力して築いていけるかが重要なんです。

地方分権や地域主権という時代の流れの中で、各自自治体が自己責任のもとに自己決定を行っていくことになりま。だからこそ、町民の皆さんと町づくりに対するの認識を共有することが必要なのです。

ということ。古代からこの地域は住みやすい地域なのだとのことです。つまりここ桂川町は「まほろばの里」なんです。このように、王塚古墳に限らず、いろんなもの・ことについてももっと知って感じてほしいと思います。それが、「心の豊かさ」をもたらすし、自分たちの町に誇りが持てるようになる源泉だと思っています。マイナス思考からは何も生み出せません。プラス思考で前を向いて進めば、たとえ少しづつであっても新しい未来が見えてきます。

先にも触れましたが、これからの時代は、住民の皆さんと

聞きませんが、次の時代の波がどのような形で押し寄せてくるか分かりません。それに対応できる力をつけ、しっかりと自立してやっていくことが桂川町の取るべきこれからの姿ではないでしょうか。自立自尊、自ら立ち、町を故郷を尊ぶ町づくり。私はこの想いを追求したいですね。

桂川町長

井上利一